http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ （通巻第１５９９号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

英　語　第66号
－高等学校・特別支援学校対象－
平成20年10月発行

英語科における「読む力」を高める工夫

英語を「読む力」は，高等学校の英語教育において最も向上させたい力の一つである。

現行学習指導要領における，中学校で扱う単語は900語程度であり，鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査における第４問の語数は毎年450語前後である。ところが，例えば平成20年度大学入試センター試験の第６問をみると，その語数は本文だけで760語，センター試験問題全体の英語は約4000語である。全問題を解答するためには，１分間に約150語以上を読まなければならないといわれ，質，量ともに飛躍的に高度化する。

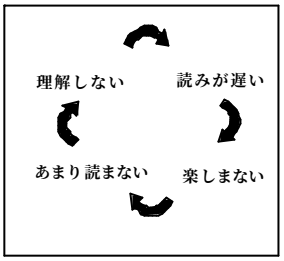
日常生活においても，英語で書かれたものが数多く見られるし，高度情報化社会である現代においては，インターネットから英語で書かれた情報を得ることも多く，英語を「読む力」は実用的かつ重要なコミュニケーション能力となっている。

「読む力」の実用性を考えると，上級学校への進学のためだけではなく，各学校の目標に応じて，高校３年間で「読む」ことへの積極的な態度を養うとともに，「読む力」を身に付けさせることは極めて大切である。

そこで，本稿では，英語科における「読む力」を高めるための工夫について述べる。

1　vicious circle と virtuous circle

Nuttall (1996:127) は読みが苦手な生徒は，vicious circle（図１）に陥っているとしている。例えば，読むのが遅いと，自分が読んでいるものに興味がもてないし，楽しむことができない。楽しむことができないから，少ししか読まない。読まないから，相変わらず理解できない。従って，読む速度は伸びず，いつまで経っても読むのが遅いということになる。生徒はこの vicious circle に陥っている場合が多く，日々の指導の中で，生徒を virtuous circle（図２)に乗せる工夫をしていく必要がある。



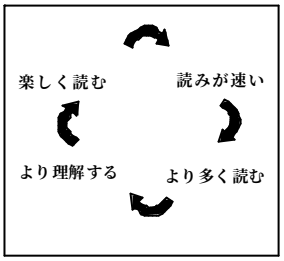


図１ vicious circle　図２ virtuous circle
（Nuttall 1996 を基に作成）

2　virtuous circcle に乗せる工夫

読む速度，楽しさ，理解はお互いに，そして，読む量と密接な関係がある(Nuttall)

ことから，生徒を virtuous circle に乗せるためには，多読と精読を組み合わせて，たくさん読ませることが重要である。多読では，生徒が読み物を自分で選び，楽しく読めるような仕掛けが必要である。精読では，教師の適切な指導の下，様々な活動を通して，英語そのものを味わわせたり，「読み」の技法を身に付けさせたりしたい。

3　多読（extensive reading）の工夫例

(1)　読み物の選び方

Nuttall(1996:131)は，楽しんで読める物を選ぶことを，最も重要な条件としている。多読では生徒が独力で読むことを目的としているので，読みやすさと内容の適切さを考慮し，教科書など授業で扱うものよりもやさしく，辞書を引かずにすらすらと楽しんで読めるものを様々なジャンルから選びたい。

(2)　多読の環境づくり

長期休業等を活用して読む機会を与えるだけでなく，図書館，あるいは，可能であれば，英語教師の身近にペーパーバックコーナーを設置し，生徒が気軽に選べるようにしておく。また，貸出票とは別に，感想記入カードをペーパーバックに入れ込んでおき，簡単な読後の感想等を記入させる。

また，生徒の興味を引くような書評をＡＬＴにやさしい英語で書いてもらい，帯としてペーパーバックに付ける。ＡＬＴの似顔絵や写真とサイン入りにすれば，更に親しみを感じるのでよい。また，ＪＴＥによる日本語での書評も付け加えれば，不得意な生徒の興味も引きやすくなり，読む励みになる。

なお，ペーパーバックは書評が見えるように，表紙を上にして展示する。

(3)　ＪＴＥの役割

教師自ら読むことを楽しむ姿を見せることが大切である。そういった姿に生徒は刺激を受けるものである。機会あるごとに本の紹介をしたり，よく読んでいる生徒をほめたり，積極的に読むよう働きかけたりするなど，励ます姿勢を常にもっていたい。

4　精読（intensive reading）の工夫例

「精読」は，授業で行うことはもちろんであるが，家庭学習をはじめとする授業外も有効に使いたい。ここでは，５分程度の日課と授業の導入の工夫例を紹介する。

(1)　日課として与える教材の種類

身近な取り組みやすい題材を使って，できるだけたくさんの英文を読ませることにより，英文に慣れ親しみ，読むことに慣れさせたい。

①　英字新聞を活用した教材

生徒に馴染みのある記事や写真の付いた記事を選ぶ。楽な気持ちで読める短い題材を選択する。ＡＬＴにやさしくリライトさせるのもよい。また，裏面に日本語の同じ記事を載せ，表現の違いを実感することができるようにする方法もある。単純な

質問を二つ程度付ける。

② ＡＬＴの文章を活用した教材

母国や学生時代のこと，来日後経験したことや感じたことなどを短い文章にまとめさせシリーズ化する。身近なネイティブスピーカーが書いたものには，生徒は関心をもつものである。異文化理解，国際理解教育にもつながる。単純な質問を二つ程度付け，ＡＬＴオリジナルの様式で作成する。

Reading 15

ACollectionofShortStories1

"TheGreatSwing"

WrittenbyStacey - Ann

WhenIwasachild,Ireallywantedtohavemyown swing.InruralJamaica,therearenopublicparks. Manyfamilieshaveverylargebackyards,sotheyuseit asplaygroundsfortheirchildren. Swingswerevery popular.Allmyneighbors,classmates,andcousinshad swings.Ipray edeverydaythatIwouldhaveaswingof myown.

Tomakeaswing,therearesomethingsthatyouneed.First,youneedtofindthe "righttree."Therightt reeshouldnotbetootallorshort.Thistreeshouldbestrong andprovidealotofshadefromtheSun. Second,youwillneedsomeropeandone pieceofstrongboard.

Iaskedmymotherforaswingeveryday.Shesaidtome,"Goodthingscometo thosewhowait."Iaskedhermanytimesandthiswasalwaysheranswer.Iwasnot satisfiedwiththisanswerbecauseitmeantthatIwouldspendanotherdaywithouta swing.Idrew;picturesofmyswingandeventold.....

Questions

1WhatdidStacey - Annaskherotherfor?

2Whatwashermother'sanswertoherquestion?

定着させたい語などの学習を兼ねることができるし，生徒はクイズ感覚で楽しんで，取り組める。使用する文法，語彙を指定の上，ＡＬＴに同形式の文章を作成してもらうことで，生徒の実態に合った教材にすることができる。

③ クイズ形式の教材

英文を読み，英文中の nonsense word（zop）を推測する例である。

What do you think "zop" means?

In Paris it is wise to get yourself a zop as soon as possible. It is very easy to get lost if you leave the main streets. You can buy zops in the train station, but they are not complete. Better zops can be found in the bookstores. These have more details andthey show all the named streets.

"MORE READING POWER"（Longman 1996）

次は，英文を読み，文末を決定する例である。

Choose the best ending.

Scottish people like to think that golf is a Scottish sport. The game did not come from Scotland, however. It was first played in Holland in the 14th century. Onlylater didit become

a. popular with the Dutch.
b. popular inScotland.
c. a realsport.
d. an Olympic sport.

"MORE READING POWER"（Longman 1996）

教科書や既習の題材等をＡＬＴにリライトさせ，同様の問題を作成する。復習も兼ねた教材になる。

④ パンフレット等を利用した教材

英語で書かれたミュージカルなどの劇場案内パンフレット等（ＡＬＴに頼むとよい。）を利用した scanning 教材を作成する。実際に存在するミュージカルや劇場の名前などが出てくるので，現実味あふれる教材となる。ゲーム感覚で楽しく取り組める。

日課のフィードバックはごく簡単に行う。生徒が負担に感じることなく，とにかく毎日続けられる工夫をする。難易度を考え，緩急をつけながら，生徒が意欲的に，楽しく取り組めるように計画を立てることが大切である。

また，プリントはすべて通し番号を付け，生徒にはファイル化させる。時間を計って読ませるシリーズがあれば，

結果のグラフを作成させるなど，学習の軌跡を残させる。１日５分程度の日課でも年間にすればかなりの分量になるので，自信につながる。提出させたものには必ず "Good!" などの励ましの言葉を記す。このような小さな積み重ねが，大きな実を結ぶことにつながる。

(2) 「読み」の導入の工夫

導入において，絵や写真を使ってスキーマ形成をするなどの工夫は各学校で行われていると考えるが，マンネリ化していないか，生徒の立場に立って点検してみる必要がある。Harmer(2007: 289)は「読み」を楽しいものにするとして，図３に示す導入を提案している。

Step 1 ↓	各生徒にＡ～Ｅの文字を渡す。
Step 2 ↓	全員目を閉じさせる。
Step 3 ↓	Ａを持っている生徒の目を開けさせ，ある語（句）を見せる。
Step 4 ↓	Ｂの生徒，そして，Ｃ～Ｅの生徒も同様にする。
Step 5 ↓	Ａ～Ｅの５人を１つのグループとして，グループに分かれる。
Step 6 ↓	グループ内でそれぞれの語（句）を手掛かりに，何のことについて書かれた文章なのかを話し合う。
Step 7 ↓	話し合った結果をグループごとに発表する。
Step 8 ↓	教師は，生徒の好奇心をくすぐるように内容を聞きたいかと生徒に尋ね，本文を読んで聞かせる。
Step 9	生徒は実際に本文を読む。

図３導入の工夫（Harmer 2007 を基に作成）

「読みたい」という欲求を駆り立て，能動的かつ積極的に読ませたい。

次は，Harmer の「読み」の導入例を活用した本時（1/4）の展開例である。

過程	生徒の主な活動	指導上の留意点
導入	1 あいさつをする。 2 JTE と ALT の会話を聞き取る。 3 質問に英語で答える。	・ 最近読んだ本のことについて，実物を見せながら話す。 ・ 話した内容について英語で質問をする。
展開	4 Step1～Step7 5 Step8 6 Step9	・ 様々な推測が楽しくできるようにお互いに関連のなさそうな語(句)を選ぶ ・ JTE と ALT は生徒の好奇心をくすぐるような話し方をする。 ・ ALT は感情を込て音読をする。 ・ 机間巡視をしながつまずいている生徒助ける。
	7 質問に英語で答える。	・ 概要を確認する英語の質問をする。
終末	8 読んだ感想を述べ合う。 9 次時の授業の確認をする。	・ 生徒の活動に対する感想を述べ，励ます。 ・ 予習の指示を明確にする。

英語科における「読む力」を高めるためには，授業で「読み」に対する積極的な態度を養うとともに，「読み」の技法を身に付けさせ，家庭学習等において継続的にトレーニングをさせることが必要である。生徒を virtuous circle に乗せることができるように３年間の見通しを立て，計画的に学習させたい。

【引用・参考文献】

ChristineNuttall 著『Teaching Reading Skills in a foreign language』 MACMILLANHEINEMANNEEnglish LanguageTeaching1996
Jeremy Hermer 著『The Practice of English Language TeachingFOURTHEDITION』 PEARSON Longman 2007
『MORE READING POWER』Longman1996
樋口晶彦，島谷浩編著『21 世紀の英語科教育』開隆堂 2007

（教科教育研修課）